

研修プログラムにおける実施項目

	研修項目	研修内容の例
(1)	初期研修	医療倫理、接遇、医療安全、個人情報保護、防災・災害対応、感染対応
(2)	内服・外用・注射剤の調剤	散薬、水薬、軟膏等の調剤、医薬品(麻薬・毒薬・向精神薬)の管理処方監査、配合変化、点滴速度、投与間隔
(3)	外来患者の薬物治療管理	外来化学療法室・投薬窓口での薬剤情報提供や指導、薬剤師外来
(4)	入院患者の薬物治療管理	入院時の薬局との連携、持参薬確認、服薬指導、薬剤管理指導記録の作成、副作用モニタリング、退院指導(薬局や介護事業者等との連携を含む)
(5)	無菌調製	中心静脈栄養(TPN)、抗がん剤、末梢点滴、持続シリンジ、自己調節鎮痛法(PCA)、レジメン監査
(6)	医薬品情報(DI)	医薬品情報の収集・提供、多職種からの問い合わせ対応、医薬品の鑑別
(7)	治療薬物モニタリング(TDM)	初期投与設計、血中濃度に基づく投与量調節
(8)	手術室・集中治療室	管理薬(麻酔薬・向精神薬・麻薬・筋弛緩薬)の管理、処方指示内容の監査
(9)	小児科・産婦人科・精神科等の専門科	—

※1)他の医療機関や薬局等との連携を含めて研修が行えることが望ましい。

※2)上記(1)(2)等は、既に研修実施済みの場合は省略可能です。

※3)上記(5)～(9)は、状況に応じて、可能な範囲で選択してください。

厚生労働行政推進調査事業費補助金「薬剤師の卒後研修カリキュラムの研究」

(研究代表者:山田清文 名古屋大学医学部附属病院教授)の資料8「薬剤師の卒後研修プログラム(案)」より一部改変

薬剤師の卒後研修プログラム (案)

初期研修 内服・外用・ 注射剤の調剤	・ 外来患者の薬物治療管理 ・ 入院患者の薬物治療管理	・ 無菌調製 ・ DI/TDM ・ 手術室・ICU ・ 小児科・老年科・産婦人科 ・ 精神科
---------------------------------	--------------------------------	--

必修：全ての施設で実施
 選択必修：何れか1つを必修として行う
 選択：各施設の状況に応じて可能な範囲で研修を行う



(必修 + 選択必修 + 選択 = 合計12週以上となるよう計画)

目標：臨床で、携わる機会が多い様々な疾患の薬物治療において、服薬指導や薬物治療管理などに必要となる実践的な知識・技能・態度を習得する (研修期間については要検討)

研修項目	研修内容 (例)
初期研修	医療倫理、接遇、医療安全、個人情報保護、防災・災害対策、感染対策 (他職種の新入職者も含めて医療機関として実施する場合は省略可)
内服・外用・注射剤の調剤	散薬、水薬、軟膏等の調剤、医薬品 (麻薬・毒薬・向精神薬) の管理、処方監査、配合変化、点滴速度、投与間隔
外来患者の薬物治療管理	外来ケモ室・投薬窓口での薬剤情報提供や指導、薬剤師外来
入院患者の薬物治療管理	入院時の薬局との連携、持参薬確認、服薬指導、薬剤管理指導記録の作成、退院指導 (薬局や介護事業者等との連携を含む)、副作用モニタリング
無菌調製	TPN、抗がん剤、末梢点滴、持続シリンジ、PCA、レジメン監査
DI	医薬品情報の収集・提供、多職種からの問い合わせ対応、医薬品の鑑別
TDM	初期投与設計、血中濃度に基づく投与量調節
手術室・ICU	管理薬 (麻酔薬・向精神薬・麻薬・筋弛緩薬) の管理、術中・術後に使用する薬剤調整、処方指示内容の監査

※薬局での研修を含む (薬局では調剤業務・服薬指導のほか、医療機関との連携方策、在宅訪問、OTC医薬品販売を含むセルフケア・セルフメディケーション等の対応が実施できる内容とする)